

伊勢湾産アサクサノリの特産化に向けた研究

山田大貴・清水康弘・羽生和弘

目的

三重県の黒ノリ養殖業は、高齢化や生産者価格の低迷、経営コストの高騰などにより生産者数の減少が続いている。そのため、黒ノリ養殖業の再建に向けて生産者の経営基盤の改善や収益性の向上を図り、経営の安定化に資する取組を行う必要がある。その方策のひとつとして他県製品との差別化を図り、競争力のある三重県産ノリ製品を生産できる新しい養殖生産体制の構築が挙げられる。本事業では、全国でもごく一部の地域でわずかししか養殖されていないアサクサノリ (*Pyropia tenera*) に注目し、付加価値のある製品を作出する技術開発を行った。

方法

1 アサクサノリ養殖試験

これまでに作出したアサクサノリ養殖株のフリー糸状体を大量培養し、ホタテ殻 10,000 枚に移植させた。ホタテ殻糸状体の維持管理は、伊曾島漁協種苗センターで行った。また、養殖試験網への採苗は、伊曾島漁協所有の陸上採苗施設において実施した。試験養殖は、桑名地区において実施した。

2 アサクサノリの生育状況調査

養殖試験中のアサクサノリ網を採取し、PCR 法（柿沼ら、2015）を用いてアサクサノリ網に生育している黒ノリの種判別を実施した。

結果および考察

1 アサクサノリ養殖試験

養殖試験には、桑名地区（17 名）の生産者が参加した。養殖試験網数は、576 枚（昨漁期 654 枚）であった。養殖試験網の張り込みは、11 月 26 日に開始され、当日中に全数張り込みが行われた。その後養殖試験を実施していたが、12 月下旬以降に試験漁場である桑名地区において、大規模な黒のりの病害が発生した。この影響により、桑名地区もスサビノリのみでなく養殖試験を実施していたアサクサノリも生産不能になったため、今年度はアサクサノリの摘採、製品の生産を行うことができなかった。なお、今漁期における水温の水位は図 1 のとおりであった。

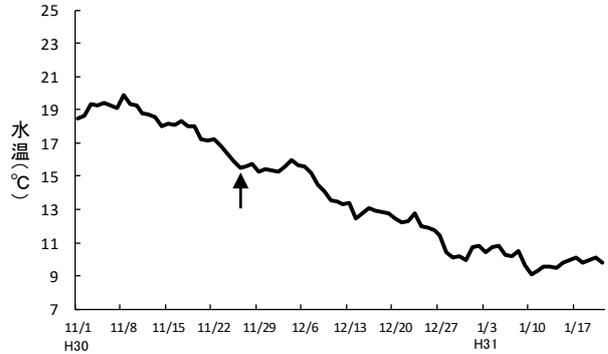


図 1. 桑名地区のアサクサノリ漁場の水温（国交省水文水質データベースより）↑は張り込み開始日

2 アサクサノリの生育状況調査

前述したように 12 月下旬に試験漁場で大規模な黒のりの病障害が発生したため生産にはつながらなかったが、養殖試験中に週 1 回程度の頻度で試験網のサンプリングを行った。そこに生育している黒のりに対し PCR による種判別を行ったところ、12 月下旬までアサクサノリが生育していることを確認できた。そのため、今漁期はアサクサノリが 12 月の下旬まで生育していたものの、その後病害により生産不能となったことが確認された。

関連報文

柿沼誠・平壯雄・岩出将英. アサクサ板ノリの品質管理・評価技術の開発—PCR による板ノリ中のアサクサノリ含量の簡易定量—. 日本水産学会誌, 2015, 81(5), 817-825.